

「〇〇学」レポート

←何の科目かを必ず書くこと。

「猫のしっぽの法律問題」

←タイトルを必ずつけること

提出日：2016年1月31日

〇〇学部 〇〇学科 学生証番号 12345679

名前：△△ ▼▼

↑表紙として別にしてもよい。

1. はじめに

本レポートでは、猫のしっぽにどのような法律的問題があるかを、授業をふまえたうえで調べて考える。具体的には、猫のしっぽは1) 長いほうがいい、2) 短いほうがいい、という両方の意見があるが、そのメリット・デメリットを比較したい。私の結論を先に述べると、「猫のしっぽ問題は総合的に考える必要がある」というものである。

私がこのレポートで猫のしっぽについて調べてようと思ったのは、授業で「・・・」の問題について扱われていたので、さらに深く調べてみたいと思ったからである。

- 最初にテーマをはっきり述べる。
- 自分の主張や、その授業との関連なども最初に述べておく。

2. 猫のしっぽについての状況

2.1 「池袋事件」から考える

2015年7月1日の池袋新聞朝刊では、池袋大学キャンパス内で「猫のしっぽ」事件が起こったことが報道されている。犯人は「猫のしっぽは長ければ長いほどいい」と発言したそうだが、ここにはどういう問題があるだろうか。しっぽが短い種類の猫もたくさんいるのに、それを無視することになっていないだろうか？

- 具体的に問題になった事件などについて説明する。
 - Googleのニュース検索など。「法律ニュース」などで検索してみる。

ページ番号を必ずつけること

2.2 法律上の扱い

まず、現在の日本の法律で、猫のしっぽがどのような扱いになっているかを調べてみた。「犬および猫のしっぽに関する法律」では、第 15 条に、「犬および猫のしっぽについては、その長さに応じて異なった取り扱いをしてもよい」と書かれている。しかし、どのような意味で異なった取り扱いをしてもよいのかは、法律を読んだだけではよくわからない。考えていくためには、実際の運用や裁判例、賛成・反対のさまざまな意見を比較して考える必要があると思われる。

- 文献の調べ方：
 - 必ず図書館に行って、いろいろな本を実際に見てみる。
 - インターネットを使う場合、CiNii や J-Stage などを有効活用すること。
- 法律や判決の調べ方：
 - 法律： 「e-Gov 法令検索」などが使える。
 - 判決： 裁判所の判決は、最高裁判所サイトの「裁判例情報」などで調べる。
 - 国会での議論の様子は、「国会会議録検索システム」などで調べる。

2.2.1 外国での扱い

外国での猫のしっぽの扱いはどうなっているだろうか。アメリカの動物法では、猫のしっぽについてははっきりした決まりがないようである。これはおそらく、アメリカ人の多くは猫よりも犬のほうが好きだからだろう。

一方、ヨーロッパでは猫のしっぽにこだわる人が多いようで、たとえばオランダでは、猫のしっぽを①長いもの (30センチ以上)、②中ぐらいのもの (15センチ以上)、③短いもの (それ以下)、に分け、異なった扱いをすべきことが定められている (参考文献 1、25 頁)。

- 外国での状況もできるだけ調べる。
- 調べたことは、(参考文献 1、25 頁) などのように必ず書く。
 - ◇ 書き方はいろいろある。例：(猫山 2015、25)
 - ◇ 脚注、文末注にしてもよい*1。

*1 参照、[犬猫 2012 : 121]。注の付け方も必ず覚えておこう。ワードだと 参考資料 > 脚注の挿入。文末注にしたり、いろいろ工夫したい場合もそこから。

3. 議論

3.1 長いほうがよい派の議論

猫のしっぽは長いほうがよい派の代表として、〇〇氏がいる。〇〇氏は、その理由として、以下のようなものをあげている (参考文献2、125-130頁)。

1. 長いといろいろ便利
2. 長いほうが見栄えがよい
3. 長いと機嫌がよいかとかよくわかる

3.2 短いほうがよい派の議論

猫のしっぽは短いほうがよい派の議論として、△△氏がいる。△△氏は、その理由として、以下のようなものをあげている (参考文献3、51-60頁)。

1. 短いしっぽもかわいい
2. 日本の猫のしっぽは短いものが多い
3. 機嫌などは、しっぽだけでわかるものではなく、総合的に判断すべき

3.3 中間派の議論

それ以外の議論としては、「人間基準で考えすぎていないだろうか。猫の幸せを基準にすれば、しっぽの長さは関係ないはずである」、「猫にはそれぞれのよさがあるのだから、しっぽだけ取り上げて議論しても意味がない」などの議論がある (参考文献4、12頁)。

- 賛成派、反対派、中間派などの議論を紹介する。
- 何をめぐって対立しているのか、を明らかにする。

4. 考察

ここまで、長いほうがよい派、短いほうがよい派の議論を見てきた。私の意見では、長いほうがよい派は、しっぽの長さだけにこだわっていて、他の重要な論点を見逃してしまっているように思える。猫には、模様などの重要な点もたくさんある。

その点では、短いほうがよい派のほうがバランスの取れた考え方であると思う。しかし、短いほうがよい派は日本の猫のことばかりを考えていて、世界的な視点であまり考えていない欠点があると思う。

- 両者の意見を比較し、よいところ、悪いところを考える。

5. 結論

以上から、私は「猫のしっぽの長さは総合的に考えるべきで、さまざまな長さのしっぽにとって公平な法的取り扱いをするべき」だと思う。そのためには、法律でも「しっぽ罪」を新設するなど、より厳格な態度で望む必要があるだろう。また、単に法律を厳しくすればよいというものではない。たとえば、専門家によるしっぽ教育などを通じて、猫のしっぽについての社会的意識を高めていく必要がある。

- 自分なりの結論、今後に向けた展望を述べてまとめとする
- 単なる感想は不要。何をどうすべきかを具体的に主張してください。

★ 参考文献一覧

1. 犬猫犬子『猫のしっぽは長いほうがよい!』(猫猫堂、2012年)
2. 宇都宮猫八「猫は模様も大切」(『まいにち猫新聞』、2015年7月26日)
<http://mainichi-nekonews.co.jp/20150726.html> (最終閲覧日: 2016年1月27日)
3. キャット・ジョンソン (猫委員会訳)『グローバル化時代の猫』(猫通信社、2011年)
4. 猫田うさぎ「オランダにおける猫法の現状」(『動物法研究』56巻4号、2016年)
5. 猫山太郎『世界の猫事情』(岩波書店、2015年)

- 参考文献は必ずこの順番でしっかり書く。
 - 書名は『』、論文・記事名は「」で囲む。
- インターネットのページも、著者・タイトルなどを忘れずに。

(3526字)

↑最後に字数を書く